

『 転換期 』

新しい年を迎えると、それだけで「襟を正し、今年こそ・・・」と、1年の目標（あるいは願望）めいたものを胸に抱きます。そして、何の根拠もなく「今年は、何か良いことが（または良い変化が）ありそうだと、私は、期待してしまうのです。

私は、ある意味、楽観主義者なのだろうと自己理解しています。とりわけ、ピンチに遭遇しても、「あー、もう駄目だ。終わりだ・・・」ではなく「大丈夫！何とかなる！」と自分に言い聞かせています。最後は「なるようにしかならない」と開き直ります。

さて、教職生活を38年もやってきますと、「あれが、私にとって、人生のターニング・ポイントであったな」と思われる時期があります。いくつかあったのですが、決定的にその前後で、大きな変化が見られた時期があります。

随分と時間は遡りますが、平成2年～平成4年。この3年間は、私の在り様を大きく変える時期となりました。

教員生活11年目から13年目の期間に当たります。2校目の中学校に勤務していた頃のことです。7月の教育コラム（201号）でも触れ繰り返しになりますが、11年目の年度は、教員生活最大の危機に陥っていました。大きな挫折を味わい「もう教師を辞めるしかない」と、完全に自信を失い思い詰めていた時期です。私の一般教員時代の中での「地獄の1年」でした。ラスト1カ月から何とか開き直ることができ、どうにか帳尻を合わせることができましたが、紙一重の状態、どっちに転んでもおかしくなかったです。

12年目は、前年度の反省を徹底的に生かし、仕事へのスタンスを修正するとともに、自己変革を図った年度でした。「絶好調は続かない。1年通してコンスタントに仕事ができる」ことを胸に刻み込み、常に「調子に乗ってないか？」「これで大丈夫と、安心してきいていないか？」と現状をチェックし、冷静に自己分析しながら仕事をしました。こんな感じでやっていたら不思議なことに、「見通しを持つ」とか「一工夫する」とか「機を逃さない」という感覚が磨かれました。そして、何より、生徒とのコミュニケーションの在り方に良い変化が見られるようになりました。生徒と会話をする際、的外れのない言葉が自然に湧き出てきて、生徒との会話が苦にならず、むしろ楽しくなりました。

この感覚は、授業や全校集会での全体指導の場においても良い影響をもたらしました。生徒としっかり向き合い、力まずに自然体で話すことができました。有り難いことに、私

の「しゃべりは」は、生徒達に受け入れられました。

これらのことは、私にとって、大きな自信となりました。そして、それまで、「線が細い」とか「波がある」といった、自分が嫌っていたところが随分と改善されていたのです。そして、いつのまにか、「自己変革」が進んでいたのです。大きな手ごたえを得た1年となりました。

13年目は、前年度の「手ごたえ」と「自信」を持った私の仕事ぶりが、上司（校長：その4月に赴任）から認められ、自信を確かなものとした年度でした。

実は、勤務していた中学校は、「大変荒れた学校」でしたが、この年度から、右肩上がりに回復し安定を見せることになり、さらには充実期へと成長していきました。

この中学校には8年勤務しました。前半4年は「荒れ」にもまれ、後半4年は、どんどん学校が良くなっていくことを実感できた、少しオーバーですが「私にとって希有な8年」でした。

ところで、この上司から、「どのような言葉をかけられたのか」と言いますと、

「先生が話された、“〇〇”は、とても大事なことです」と、折に触れ、会議や研修の場で私の発言を取り上げ、認めてくださいました。このことにより、私は、自信を強めていったのだと思います。

でも実は、一番私が嬉しかった言葉は、その上司が翌年10月に急遽異動になり、その引越しの手伝いに同行した際に言われた言葉です。その上司は、前任の中学校でも職員から絶大なる信頼を寄せられており、引越しの手伝いが前任校からも大勢来ていました。“安着祝い”の席で、何がきっかけだったのかは定かではありませんが、「生徒達への話し方がいいんだよ」と、私のことを話されたのです。この一言は、私にとっては、何事にも代えがたい有り難いものでした。そして、確たる自信につながる一言でした。

今、ふり返ると、あの3年間は、挫折と自信喪失（心身共にボロボロ状態）の1年目、復活と安定と手ごたえを得た2年目、充実感を味わい確かな自信を獲得した3年目でありました。

8年勤務した後、私は再び小学校で勤務することを希望しました。当時の教育長さんからは、「中学校勤務の者が、小学校に希望を出すということが、どういう意味かわかっていますか？中学校から逃げたと見られますよ」と言われました。私は、「どう思われてもいいです。ただ、この学校で学び掴んだ“生徒指導”の考え方ややり方を、是非、小学校で生かしたいのです」とお願いしました。

結果、超大規模の小学校への異動となりました。実に様々な問題が起きましたが、前任の中学校で学び掴んだ“生徒指導”の考え方ややり方と培った「自信」は、このマンモス校において、いづらか生かすことができたかなと思っています。